

門松ものがたり vol.03



伝統を支える見えない工夫、守りながらより良く

立て込みの技 美への工夫

いよいよ門松の立て込み作業に入ります。立て込みで重要なのは、対で飾った際に美しく対称になっているか、また全体のバランスや竹の角度が揃っているかです。

さらに、お客様の設置環境に合わせて、強風にも耐えられるよう土台に重しを加えるなど、設置期間中に転倒しないための工夫も施しています。

昔ながらの伝統的な工程を守りながら、見えない部分では材料や構造を工夫し、品質を保ちながら価格を抑える改良にも取り組んでいます。

3、立て込み



土台に、美しく対称にそろえた竹を据えていきます。この後の松を挿す工程でも重要な役割を果たすおがくずを使い、竹をしっかりと固定していきます。バランスを見ながら、二人一組で丁寧に作業を進めます。



据える竹は、3本1組にまとめていきます。対になる竹は、一本の同じ竹から切り出したものを使用し、左右の表情や風合いが揃うようにしています。

『顔』を美しく保つ工夫

桃原農園では、時代の変化に合わせて門松づくりのさまざまな工程を改良しています。

近年では、沖縄特有の湿気の多い環境でも安心して飾っていただけるよう、カビが発生しにくい下処理や乾燥にも手間をかけています。この工程は時間と手間がかかりますが、仕上がりを左右する大切な工程のため、省くことはしていません。

沖縄の地で長年門松を作り続けてきた、桃原農園ならではの技術と工夫です。

